

テヘランの休日



JCCME テヘラン事務所代表 大田 治穂

日本の休日には何をしていたらどうか。大抵家でゴロゴロしてたが、気が向いた時には、街に出かけて映画を見たり、食事をしたり、ウィンドーショッピングをしたり、偶にドライブ、健康の為に時々ゴルフもした。イランの人達も殆ど同じような休日を過ごしている。

映画館もあれば洒落たレストランもある。そして自動車社会なので、ドライブにも行く。

イランの人に休日は何をしているか聞いたが、以下多かったものを挙げると、

- 1) ウォーキング・山登り：テヘランの街は正直空気が汚れている。盆地なので冬には空気が籠り、グレーの空しか見えず、あまり市内でジョギングというのは見かけない。

綺麗な空気を求めてか、休みに山に登るという人が非常に多かった。テヘランの北には4000メートル級の山が控えており、冬には真っ白になる。近くに幾つもスキー場があり、高度が高いせいか日本でもあまり見れないパウダースノー。夏も空気がきれいで、景色も非常にいい。普段ケバブを食べているせいか、運動もしっかりしたいという人が多い。因みにお家芸のウェイトリフティングではないが、市内には非常に多くのジムがあり、平日の夜にジムに通う人も多い。

- 2) 家族と散歩：市内の至る所に公園がある。休日には多くの人が公園で散歩している。

またシートを敷いてお茶を飲んでいる人が多い。イランの人は家族を非常に大事に



テヘラン唯一のエンゲラブゴルフ場。周りは遊歩道になっており、多くの人がウォーキングをしている。今年は6月初めまで山に雪が残っており景色は非常に良かった。

(19年4月筆者撮影)



左：絨毯展
右：クラフト展
(19年8月撮影)

するし、また非常に話好きな人が多い。街でも気軽に声をかけて来るが、朝から夕方まで公園でお茶を飲んで、良く話が続くと思う。

- 3) ショッピング：バザールは平日でも混んでいるが、休日ともなると歩けない程混雑する。最近では大型のスーパーも多くでき、高級ショッピングモールも出来ている。

そして毎週のように展示会・フェアが行われ、休日は多くの人で賑わっている。

近くにナマエシカという展示場があり、家具展とか菓子展と毎週何か行われている。今週は年1回行われる絨毯展が行われている。

各地より数百という絨毯店が独自のブースを出しており、真剣にみると1日でも足りない。一旦店に入ると話好きのイラン人は中々離してくれない。あの手この手で売り込みをかけて来る。満面の笑みで売込みを掛けてくるくせに、値段交渉になると顔つきが変わる。またバザールなどで、言い値で買うと逆に怒り始める。

とにかく交渉好きなのだと思う。

聞いて面白かった休日の過ごし方は以下

- 1) 映画館のはしご：市内の至る所に映画館がある。イランは非常に多くの映画を作っており、国際的な賞も幾つも受賞しており、イラン人は映画好きである。

国内のTVでは海外のドラマも流しており、“おしん”や“一休さん”を見たという人は多い。最近では“チャングムの誓い”などの韓国ドラマはじめ“プリズンブレイク”などの米国ドラマもやっている。

話を聞いた人は、子供の頃“一休さん”を見てアニメにはまり、その後海外映画にはまり、今は国内映画にはまっている。その人が言うには、アニメには夢があり、海外映画には爽快感があり、イラン映画には人生があると。例えば日本を代表する宮崎駿監督の作品は子供の頃想像した冒険や夢があり、米国を代表とするアクション映画は必ず最後に正義が勝ち満足感を得られる。イラン映画は日常の些細な事を題材に最後に自分に語りかける作品が多く、人生を考えさせられると。

あまり多くのイラン映画を見てないが、最初に見た“金魚”(イラン正月に必要な金

魚を買いに行く子供の話) にしろ、日・イ合作映画にしろ、売れない役者の映画にしても結末というのがなく、これはどういう意味だったのか考えさせられる。

結末の見えない今の状況にピッタリかもしれない。

2) 家庭菜園：園芸好きな人は多く、盆栽をやっている人は多いが、その人は郊外に小さな土地を持っており、作業小屋も持っているとの事。丁度今がシーズンで毎週2時間かけて通っているとの事だが、よくよく聞いてみるとなんと葡萄を栽培しているとの事。確認はしなかったが作業小屋では間違いなくワインを作っている。禁酒の国だがアルメニアン等は暗黙の了解で許されており、一部のアルメニアンレストランではお酒も飲める。周知の事実だがアルメニアンに限らず、多くの人が自宅ではワインを作り飲んでいる。イランには“マゴゼ”という小さな雑貨屋が至る所にある。日本のコンビニみたいなもので、日用品から野菜・果物まで売られているが、夏の終わりにマゴゼの軒先には何十箱もの葡萄が積み上げられ、それを10箱単位で買っていく。友人によると野菜市場では葡萄を潰したものが樽詰めで売られており、ご丁寧に氷砂糖までつけてくれ、今年の葡萄だとどのくらいの砂糖を入れたらいいよと説明までしてくれるらしい。因みにシーズンをはずすと、干し葡萄から作り、これを蒸留して“イラニアンウォッカ”として闇で出回っているが、最近は混ざり物が多く問題になっている。

3) 競馬：ドバイ・メイダン競馬場は有名だが、なんとイランでも競馬をやっているという。イラン各地に競馬場があり、その人は毎月どこかの競馬場に行っているとの事。テヘランにもあるというので行ってみた。元々昔から盛んで、革命前に王族が作ったと言われる競馬場で、90年代くらいにはやっていたそうで、一時閉鎖されていたが、2014年くらいから再開された。入場料は10万リアル(約100円)でご丁寧にパンフレットまでくれた。その日はシーズンの初めで大きなレースはなく、午後の5レースのみとの事だったが、レース前には獣医による出走馬の点検があり、パドック代わりに多くの人が見ていた。

驚いた事に馬券の発売をしており、窓口の前にはパトカーも止まっているのに平気で馬券を買っている。発売しているのは1着を当てる単勝と、1-2着を当てる馬連のみで、1万リアル(約10円)から100万リアル(約千円)まで買える。そこはイランの事ゆえノミ屋がいて、大口購入を受けてくれるとの事。

まだシーズン初めという事もあり、2百名程の観客しかおらず、購入時にはオッズも分からない100円程度の馬券を握りしめてレースを楽しんだ。

馬券は外れたが、それ以上にここでギャンブルができるんだという事で感動し、またそれを休日に楽しんでいる人達もいる事に驚いた。



テヘラン・ノールザバット競馬場
(18年・8月筆者撮影)

休日も仕事という人もいる。厳しい状況でも輸出入を続けている人もいる。
イランは制裁という長い休日に入っているが、様々な形で休日を謳歌している。